

あたらしくはいった本 (令和4年3月 貸出開始資料から)

- 小説 春のこわいもの(川上未映子/著) 風の港(村山早紀/著) パラレル・フィクショナル(西澤保彦/著) 燕は戻ってこない(桐野夏生/著) 漆花ひとつ(澤田瞳子/著) 稔と仔犬 青いお城(遠藤周作/著) 喜べ、幸いなる魂よ(佐藤亜紀/著) 趙雲伝(塚本青史/著) シャルロットのアルバイト(近藤史恵/著) 人生の決算書(曾野綾子/著) それぞれの風の物語(中場利一/著) アーチー若気の至り(P.G.ウッドハウス/著) 名探偵と海の悪魔(スチュアート・タートン/著)
- 随筆・詩などの文学 センス・オブ・何だあ?(三宮麻由子/著) 寂聴さん最後の手紙(瀬戸内寂聴、横尾忠則/著) これは、アレだな(高橋源一郎/著) 『その他の外国文学』の翻訳者(白水社編集部/編)
- その他の本 五色のメビウス(信濃毎日新聞社/編) バテない登山技術(野中径隆/著) スキル0でも一目でわかるソーイング大全(オルソン恵子/著) 簡単DIYのできる花壇と寄せ植え(井上まゆ美/著) 茶箱あそび、つれづれ(ふくいひろこ/著)



『春のこわいもの』
川上未映子
新潮社



『アーチャー若気の至り』
P.G.ウッドハウス
国書刊行会



『センス・オブ・何だあ?』
三宮麻由子
福音館書店

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
5	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

江戸時代の紀行文(2) 『太宰府紀行』

以前このコーナーで「宇佐詣記」という紀行文を取り上げました(令和3年11月1日号)。今回は「太宰府紀行」を紹介します。

「太宰府紀行」は、寛政8(1796)年の紀行文で、九州大学附属図書館に所蔵されています。作者は不明ですが、おそらくは津和野の人で、この本は作者の自筆稿本と考えられます。内容が具体的に興味深いこと、また訂正箇所が多数あってその制作過程がうかがわれることなどから、福岡教育大学名誉教授板坂耀子さんが全文の翻刻をしていますので、太宰府を中心に、その内容を垣間見てください。



～公文書館だより⑦～

まず、「太宰府紀行」と題されていますから、太宰府を訪れるのが目的で、たとえば冒頭には「まだしらぬひの筑紫かた経回の志侍りて」(まだ知らない筑紫を巡り歩きたいという思いがあった)と記し、また「小屋の瀬」(木屋瀬)宿の「右福岡道/左長崎道」と刻まれた追分道標では、「先ッ太宰府への志しなれば直ぐに長崎道へ掛り」(まずは太宰府へという思いなので、すぐに長崎道に入り)とも記しています。その後、米の山越えて太宰府に入った作者は、太宰府天満宮鳥居の脇の泉屋に宿をとります。

当延寿王院の役僧中将なる人物に伴われ、「物かたり」しながらの参詣で、その様子は板坂さんがいわれるように、きわめて具体的に興味深いものです。

翌日にも天満宮を参詣、「あいそめ川」を見物、光明寺の渡唐天神を拝み、さらに観世音を参詣します。次に訪れた都府楼跡では「古えはこの辺都て内裏の境地と聞えぬれども今は田野と変じ、まばらに礎石三四十ばかり残せり」「此辺に布目有て色々模様つきし瓦の欠など有、誠に旧物と見ゆ」などの感想を記しています。それからまた、ちよっと足を延ばして榎社、さらに二日市温泉を訪れた後、太宰府の宿所泉屋に戻ったのでした。

【バックナンバーはこちら】
ページID7241

太宰府市公文書館 重松敏彦